

ふくしまグリーン復興構想 (第2期)



ふくしま
グリーン
復興構想

Fukushima Green Revitalization

福島県・環境省

令和8年3月

目次

1 背景・目的	1
2 自然公園の概況	3
(1) 福島県における自然公園等の概況	3
(2) 自然公園利用者数	4
(3) 自然公園を活用した取組	5
3 自然公園を取り巻く環境の変化	6
(1) 2050年カーボンニュートラルに向けた動き	6
(2) 国際的なネイチャーポジティブ・30by30の動き	6
(3) 多様な主体によるトレイルルートの開通	7
(4) 全国的なインバウンド観光客の増加	7
4 ふくしまグリーン復興構想のこれまでの取組と成果	8
(1) ふくしまグリーン復興構想(第1期 平成31年度～令和7年度)について	8
(2) 3つの柱に沿った取組	10
(3) 目標の達成状況	16
5 課題	17
(1) 訪れる側の視点	17
(2) 受け入れる側の視点	21
(3) 課題の整理	23
6 目指す姿	24
7 第2期の基本方針	24
(1) 基本方針	24
(2) コンセプト	24
(3) 対象エリア	24
8 数値目標	25
9 2つの柱と具体的取組	25
柱1 自然環境の保全と自然保護意識の醸成	26
柱2 自然公園等の滞在環境等の上質化	28

1 背景・目的

福島県は、広大な県土を背景に豊かで多様性に富んだ自然環境に恵まれ、尾瀬国立公園や磐梯朝日国立公園に代表される自然公園には、平成22年まで県内外から毎年1,500万人を超える多くの人々が訪れ、にぎわいを見せていた。

しかしながら、平成23年3月に発生した東日本大震災（東北地方太平洋沖地震とそれに伴って発生した大津波及び東京電力福島第一原子力発電所事故による災害。以下「震災」という。）の影響により、自然公園の利用者数は急激に落ち込み、帰還困難区域の再生を始めとした環境回復に向けた取組と並行して、福島県の自然環境の素晴らしさをより多くの人々が実感し、次の世代にしっかりと引き継ぐための取組を本格的に進めていくことが求められた。

こうした中、環境省は、平成30年8月に、福島復興の新たなステージに向けた支援方針「福島再生・未来志向プロジェクト」の一つとして、福島県内の自然資源活用による復興「ふくしまグリーン復興への支援」を行うことを公表した。

平成31年4月には、福島県の優れた自然環境を代表する国立公園・国定公園の魅力向上、自然資源や歴史、文化、景観、食、温泉などの地域資源を取り入れた自然公園間を広域的に周遊する仕組みづくりなどにより、自然環境の保全と調和を図りながら適正な利用を促進し、交流人口の拡大を目指していくため、福島県と環境省が共同で「ふくしまグリーン復興構想」を策定した。

「ふくしまグリーン復興構想」に基づき各種取組を実施していく中、令和2年に新型コロナウイルス感染症が流行し、自然公園の利用者数が更に減少した。それを受け、当初令和5年としていた国立公園・国定公園の利用者数を700万人とする目標年を、2年延長することとなった。

現在、国立公園・国定公園の利用者数は、新型コロナウイルス感染症の落ち着きとともに徐々に回復傾向にあり、震災前の利用者数に近づいているものの、目標には届いていない状況となっている。

ふくしまグリーン復興を実現し、交流人口を拡大していくためには、取組の継続や強化が必要不可欠であり、さらにそれぞれの取組を実施する中で見えてきた課題へ対応するとともに、国際的なネイチャーポジティブに向けた動きや脱炭素に向けた動きなども踏まえていく必要がある。

また、当初構想で想定していたとおり、取組内容の充実と進化を図りながら、福島県内の他の自然公園への水平展開を図っていく必要がある。

本構想は、自然公園の現状や課題の再整理を行い、新たなふくしまグリーン復興構想として自然公園を中心とした取組の基本的な方向性を取りまとめたものである。

なお、本構想は、美しい自然環境に包まれた持続可能な社会の実現(福島県環境基本計画【第5次】)及び地域循環共生圏の創造(第六次環境基本計画)に沿って取り組むものとし、国立公園満喫プロジェクト等とも連携しながら推進していくこととする。

2 自然公園の概況

(1) 福島県における自然公園等の概況

本県には3つの国立公園、1つの国定公園、10の県立自然公園があり、全体面積は180,210haで県土の約13%を占めている。



図1 福島県自然公園

県内の自然公園は、美しい自然の風景地を始め、歴史的価値が高い地域や自然の恵みが産業を支えている地域等があり、多様な自然環境を守り、育む人々の営みによって支えられている。



五色沼湖沼群(北塩原村)
(磐梯朝日国立公園)



大江湿原(檜枝岐村)
(尾瀬国立公園)



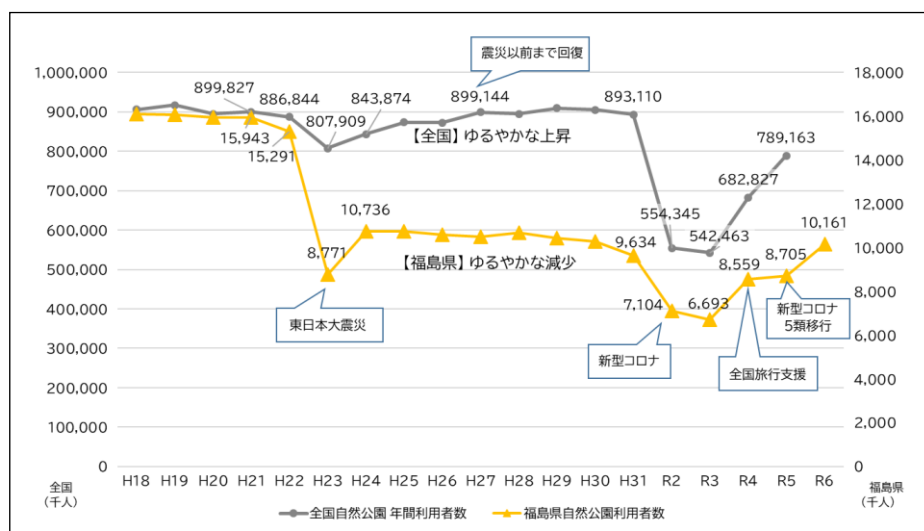
只見川と大志集落(金山町)
(越後三山只見国定公園)

(2) 自然公園利用者数

福島県は、広大な県土を背景に豊かで多様性に富んだ自然環境に恵まれ、尾瀬国立公園や磐梯朝日国立公園に代表される自然公園には、県内外から毎年 1,600 万人を超える多くの人々が訪れ、にぎわいを見せていた。

しかしながら、震災の影響により、自然公園の利用者数は急激に落ち込み、震災の翌年には多少の回復を見せたものの、その後はゆるやかな減少基調にあった。令和2年から令和3年にかけては、新型コロナウイルス感染症が流行し、自然公園の利用者数が更に減少した。

現在は新型コロナウイルス感染症の落ち着きとともに、徐々に回復傾向にあるものの、震災前の7割に満たない状況となっている。特に、浜通りの県立自然公園では、震災以降利用者数の落ち込みが続いている。



グラフ1 自然公園の年間利用者数の推移 全国との比較

単位: 千人

公園名	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R6/H22
霊山	159	42	46	64	100	96	105	142	138	116	94	115	128	124	175	110%
霞ヶ城	618	319	642	469	508	516	486	449	446	447	292	248	390	385	564	91%
南湖	473	259	401	437	460	493	499	496	496	506	416	461	545	561	621	131%
奥久慈	498	316	327	332	409	394	388	388	383	371	238	233	278	291	292	59%
磐城海岸	1,373	236	334	407	482	580	587	582	615	568	327	328	932	491	489	36%
松川浦	1,140	170	100	112	113	118	111	96	90	89	100	107	101	98	644	56%
勿来	293	42	61	77	71	74	74	46	63	65	47	24	38	41	49	17%
大川羽鳥	1,437	581	933	1,044	883	836	812	825	704	730	474	376	584	667	805	56%

グラフ2 県立自然公園の年間利用者数の推移

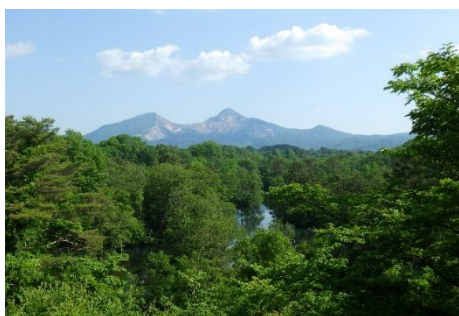
※ 令和6年分から集計地点の再整理を行った。(集計地点数: 令和5年 69 地点、令和6年 83 地点)

再整理後の集計地点の考え方: 福島県観光客入込状況の調査集計地点のうち、自然公園内に位置する場所、施設等及び自然公園内で実施されたイベントの観光客入込数の合計

福島県観光客入込状況の集計対象地点は「前年又は調査年の観光入込客数が年間1万人以上、若しくは前年又は調査年の特定月の観光入込客数が5千人以上」の観光地(イベント)とされているため、調査地点は調査年によって変動がある。

(3) 自然公園を活用した取組

県内では、磐梯朝日国立公園を含むエリアにおいて、平成23年9月に「磐梯山ジオパーク」が日本ジオパークとして認定され、平成26年6月には越後三山只見国定公園を含む只見町全域が「只見ユネスコエコパーク」として認定された。



磐梯山ジオパーク
(北塩原村)



只見ユネスコエコパーク
(只見町)

最近では、令和5年8月に磐梯朝日国立公園の土湯温泉・高湯温泉がゼロカーボンパークに登録され、令和7年7月には猪苗代湖がラムサール条約湿地に登録されるなど、自然環境の保護・保全を図りつつ持続可能な形で利活用する取組が進められている。



土湯温泉・高湯温泉ゼロカーボンパーク
(福島市・土湯温泉)



猪苗代湖ラムサール条約湿地登録
(会津若松市、郡山市、猪苗代町)

また、日光国立公園と磐梯朝日国立公園磐梯吾妻・猪苗代地域では国立公園満喫プロジェクトに基づくステップアッププログラムが策定され、尾瀬国立公園においては新・尾瀬ビジョンに基づく尾瀬国立公園利用アクションプランが策定されるなど、国立公園の保護と利用の好循環に向けた取組が進められている。

3 自然公園を取り巻く環境の変化

(1) 2050年カーボンニュートラルに向けた動き

平成27年に、様々な環境問題を背景に持続可能な開発目標(SDGs)を掲げる「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、平成28年には、世界の平均気温上昇を産業革命以前と比較して2度より十分低く保つとともに1.5度に抑える努力をする事を世界共通の成果目標とした「パリ協定」が発効された。

国では、令和2年10月、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言した。

福島県では、令和3年2月に、2050年までのカーボンニュートラルの実現を目指すことを宣言し、令和6年10月に「福島県二〇五〇年カーボンニュートラルの実現に向けた気候変動対策の推進に関する条例」を制定し、取組を強化している。

(2) 国際的なネイチャーポジティブ・30by30の動き

令和4年12月に生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)において「^{こんめい}昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択され、2030年までに生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せること(ネイチャーポジティブ)を目指し、4つのゴールと23のターゲットが決められた。2030年までに、陸域・内陸水域と沿岸域・海域の少なくとも30%が効果的に保全・管理されること(30by30)など、生物多様性の保全・持続可能な利用・遺伝資源の利用から生ずる利益の公正衡平な配分に関する目標が定められた。

この枠組みの決定を受け、国では生物多様性国家戦略 2023-2030 を策定し、ネイチャーポジティブ(自然再興)の実現のため、5つの基本戦略と行動目標を定めた。

福島県では、ふくしま生物多様性推進計画【第3次】を策定し、3つの基本戦略と15の行動目標を定め、取組を推進している。



鹿島建設株式会社及びレンゴー株式会社による
自然共生サイト認定報告



自然共生サイトとは

自然公園等の保護区以外に、目的に関係なく、民間等の取組により生物多様性保全に貢献しているとして、国が認定した地域のこと。県内では、7か所認定されている。(R7年12月31日時点)

(3) 多様な主体によるトレイルルートの開通

令和元年6月に関係自治体、民間団体、地域住民の協働により青森県八戸市から福島県相馬市までの太平洋沿岸をつなぐ「みちのく潮風トレイル」が開通した。また、令和5年 9 月には、うつくしま浜街道観光推進会議が主体となり福島県新地町からいわき市までの10市町をつなぐ「ふくしま浜街道トレイル」沿岸ルートが開通した。



みちのく潮風トレイル Trail Head & End Point
(相馬市松川浦)

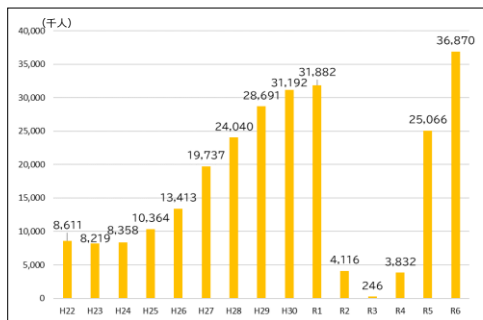


トレイルウォークイベント

(4) 全国的なインバウンド観光客の増加

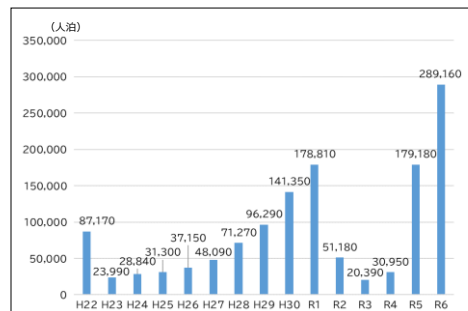
訪日外国人は、新型コロナウイルス感染症の拡大及びそれに伴う水際措置によって大幅な落ち込みを見せた令和2年から令和4年を除き、平成 25年以降、飛躍的な増加傾向にある。

県内においても、インバウンド宿泊者数が令和6年には過去最多の 289,160 人となるなど、今後もインバウンド観光客の増加が見込まれる。



グラフ3 訪日外客数

※日本政府観光局「年別 訪日外客数、出国日本人数の推移(1964年-2024年)」より



グラフ4 福島県内インバウンド宿泊者数の推移

※観光庁「宿泊旅行統計調査」より

4 ふくしまグリーン復興構想のこれまでの取組と成果

- (1) ふくしまグリーン復興構想(第1期 平成31年度～令和7年度)について
ふくしまグリーン復興構想(第1期)の概要は以下のとおり。

ア 基本方針

- ・ 豊かで多様性ある自然環境を適切に保全するとともに、魅力的で質の高い自然体験の提供を通じて自然保護意識の醸成を図り、自然の恵みを次世代へ継承する。
- ・ 国立公園・国定公園を始めとする個々の自然公園の魅力向上と様々な地域資源を取り入れた自然公園間を広域的に周遊する仕組みづくりなどにより、自然公園利用者数の回復と交流人口の拡大を図り、福島県全体の復興に寄与する。
- ・ 脱炭素や資源循環等の視点による新たな仕組みの検討や構築等を通じて、環境負荷が少なく持続可能な自然公園を目指す。

イ コンセプト

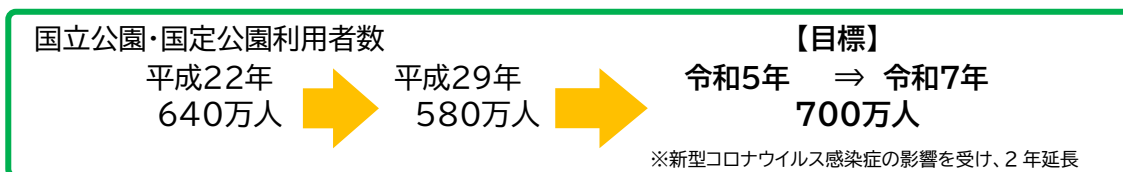
「まもり、みがき、未来へつなぐ。至福のふくしま」

福島県内の豊かな自然を保全し(まもり)、魅力の向上や周遊の仕組みづくり等を通じて自然公園利用者数の回復等を図りながら(みがき、つなぐ)、自然の恵みや持続可能な活用等を次世代へ継承する(未来へつなぐ)。

ウ 目標

国立公園・国定公園を中心とした取組を行うことにより、国立公園・国定公園の利用者数が震災前を上回ることを目指す。

なお、これらの取組内容の充実と進化を図りながら、将来的には、福島県内の他の自然公園へと水平展開を図るものとする。



エ 3つの柱と具体的取組

福島県と環境省は互いに連携し、自然公園の利用者や各地域のニーズ等の把握に努めながら、「国立公園・国定公園の魅力の向上」、「環境変化を踏まえた県立自然公園の見直し」、「国立公園・国定公園を中心に福島県内を広く周遊する仕組みづくり」の3つの柱に沿って本構想の実現に取り組む。構想の推進に当たっては、統一イメージの下に、市町村、関係団体、民間事業者等と連携を図りながら、情報発信やプロモーションを行う。

柱 1	柱 2	柱 3
国立公園・国定公園の魅力向上	環境変化を踏まえた 県立自然公園の見直し	国立公園・国定公園を中心に 福島県内を広く周遊する 仕組みづくり
○利用拠点の整備・充実 ○インバウンド対策 ○景観の改善 ○エコツーリズムの推進 ○自然環境の保全 ○二次交通の検討	○自然環境調査 ○関係機関・自治体との協議 ○関係事業との連携 ○更なる魅力向上策の検討	○ロングトレイルを含む周遊ルートの設定 ○周遊促進の仕組みづくり ○多様な移動手段の検討
効果的な実施に向けて <u>推進体制の整備</u> ○市町村、関係団体、民間事業者等との連携／○専門家等による助言など <u>情報発信・プロモーション</u> ○統一イメージの形成／○ホームページ・SNS等の活用 ○インバウンドに対応したプロモーション活動など		

(2) 3つの柱に沿った取組

国立公園・国定公園の利用者数が震災前を上回ることを目指し、「国立公園・国定公園の魅力の向上」、「環境変化を踏まえた県立自然公園の見直し」、「国立公園・国定公園を中心に福島県内を広く周遊する仕組みづくり」の3つの柱に沿って、これまで構想の実現に向けた各種取組を実施した。

ア 柱1 国立公園・国定公園の魅力の向上

質の高い空間づくりや利用者数・滞在時間の増加、環境意識の向上等を目指し、各種取組を実施した。

(ア) 利用拠点の整備・充実

- ・ 令和3年7月に尾瀬国立公園尾瀬沼ビジターセンターを再整備し、尾瀬の成り立ちや生息する動植物について、より視覚的、体感的に学ぶことができるようになった。
- ・ 令和6年7月に奥会津エリアの魅力を発信する拠点施設として、越後三山只見国定公園奥会津ビジターセンターを道の駅会津柳津内に新たに開所した。
- ・ 令和7年4月に磐梯朝日国立公園裏磐梯ビジターセンターをリニューアルオープンし、機能の拡充と展示内容を一新した。
- ・ 国立公園・国定公園内の遊歩道や野営場、園地等の再整備を実施し、利用者の利便性向上と滞在環境の充実につなげた。



尾瀬沼ビジターセンター



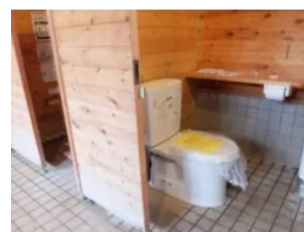
裏磐梯ビジターセンター

(イ) インバウンド対策

- ・ 増加傾向にある外国人利用者に対し、それぞれの自然公園の情報や魅力を分かりやすく効果的に伝えるため、多言語対応のホームページやパンフレットの作成、多言語版解説標識を整備した。
- ・ 外国人を始めとした利用者の利便性やサービスの向上に向け、Wi-Fiなどの通信環境整備やトイレの洋式化等を進めた。



多言語標識



トイレの洋式化

(ウ) 景観の改善

- ・ 国立公園・国定公園を中心としたビューポイントの洗い出しを行い、自然環境に影響を与えない範囲で、磐梯朝日国立公園を中心にビューポイントにおける眺望の阻害要因を取り除き、景観改善を行った。
- ・ 猪苗代湖において、水質の汚濁の一因であり、環境や景観を阻害している漂着水草やごみの撤去作業を実施した。



通景伐採の実施例

(エ) エコツーリズムの推進

- ・ エコツーリズムを中心として活動するガイドやインストラクターの人材育成のため、体験講習会やスキルアップ研修などを実施した。
- ・ 国立公園・国定公園内でのモニターツアーの開催や、尾瀬国立公園における県内の子どもたちを対象とした自然環境学習への支援を行った。
- ・ 猪苗代湖におけるヒシ刈り・ヨシ刈りや裏磐梯湖沼群における外来種駆除などを体験しながら学ぶ親子向け環境学習会を開催した。



エコツーリズムガイド研修



ふくしま子ども自然環境学習



親子向け環境学習会
(ウチダザリガニの駆除)

（オ） 自然環境の保全

- ・ 水環境保全活動として、多くのボランティアの協力を得ながら猪苗代湖のヒシ刈り・ヨシ刈りや湖岸清掃を行う猪苗代湖クリーンアクションを実施した。
- ・ 植生復元調査の実施や、野生鳥獣対策の推進、特定外来生物の防除等を実施した。



猪苗代湖クリーンアクション



オオハンゴンソウ駆除

（カ） 二次交通の検討

- ・ 観光シーズンにおける交通渋滞の緩和や利便性の向上のため、尾瀬や雄国沼周辺でのシャトルバスの運行を行った。
- ・ 環境負荷低減の観点を踏まえ、裏磐梯地域でレンタサイクルの実証を行った。



尾瀬シャトルバス



レンタサイクル実証

イ 柱2 環境変化を踏まえた県立自然公園の見直し

- ・「只見柳津県立自然公園」について、国定公園編入に向けた調査を行い、令和3年10月29日に隣接する「越後三山只見国定公園」に編入された。
- ・令和6年7月、柳津町に「越後三山只見国定公園奥会津ビジターセンター」を開所し、関係町村等と連携した越後三山只見国定公園及び周辺地域の魅力発信やイベント等の開催により、国定公園の利用者数の増加と交流人口の拡大を図った。



奥会津ビジターセンター オープニングセレモニー



館内の様子



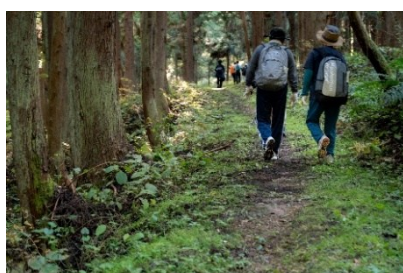
来館者 10 万人達成

ウ 柱3 国立公園・国定公園を中心に福島県内を広く周遊する仕組みづくり

自然資源や文化資源等を掘り起こし、磨き上げ、つなぎ合わせることで、点から線・面的に周遊できるよう、必要な環境整備を図りながら、広域周遊や繰り返し訪れてもらえるような仕組みづくりを行った。

(ア) ロングトレイルを含む周遊ルートの設定

- ・ 国立公園・国定公園内を歩いて堪能する全 7 ルート、15 コースの「会津トレイル」を設定した。
- ・ 磐梯山とその周辺の湖や街を巡る 5 つのサイクリングルート、「磐梯・猪苗代ナショナルパークサイクルウェイ」を設定した。



北塩原村ルート
曾原湖・小野川湖畔コース
五色沼・松原湖畔コース
猪苗代湖ルート
安達太良・軽便鉄道コース
山麓めぐりコース
柳津町ルート
里山めぐりコース
只見川と赤べこめぐりコース
金山町ルート
沼沢湖・フェアリーコース
大志・太郎布高原コース
大塩炭酸水コース

檜枝岐村ルート
集落めぐりコース
尾瀬沼・会津沼田街道コース
只見町ルート
要雪山コース
只見湖・集落めぐりコース
三島町ルート
三島町・沼田街道コース
集落めぐりコース

会津トレイルの設定

(イ) 周遊促進の仕組みづくり

- ・ 「会津トレイル」や「磐梯・猪苗代ナショナルパークサイクルウェイ」を活用し、モニターツアーの開催や動画等の情報発信により周遊促進を行った。
- ・ 国立公園・国定公園を中心としたエリアの絶景をまとめた絶景巡礼・ふくしまビューポイント50及びモデルルートの設定により周遊性を高めたほか、フォトコンテストやスタンプラリーの実施により誘客を促進した。
- ・ 自然や環境について学べる41施設をまとめた自然環境学びめぐりGUIDEを作成して周遊性の向上と自然保護意識の醸成を図ったほか、スタンプラリーの実施により誘客を促進した。



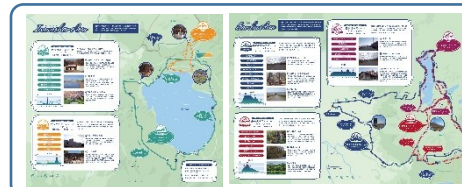
絶景巡礼・ふくしまビューポイント50



自然環境学びめぐりGUIDE

(ウ) 多様な移動手段の検討

- ・「磐梯・猪苗代ナショナルパークサイクルウェイ」の設定やレンタサイクルの実証などによりサイクルツーリズムの促進を図った。
- ・東武鉄道を利用して行くふくしま尾瀬のPRや、JR只見線を活用した越後三山只見国定公園のモニターツアーの実施など、公共交通を活用した周遊の検討を行った。



猪苗代町ファンコース ~イナファン~
桧原湖一周コース ~ヒバイチ~
猪苗代湖一周コース ~イナイチ~
磐梯山クライムコース ~パンクラ~
磐梯猪苗代満喫コース ~バンキツ~

磐梯・猪苗代ナショナルパークサイクルウェイ

エ 推進体制の整備と情報発信・プロモーション

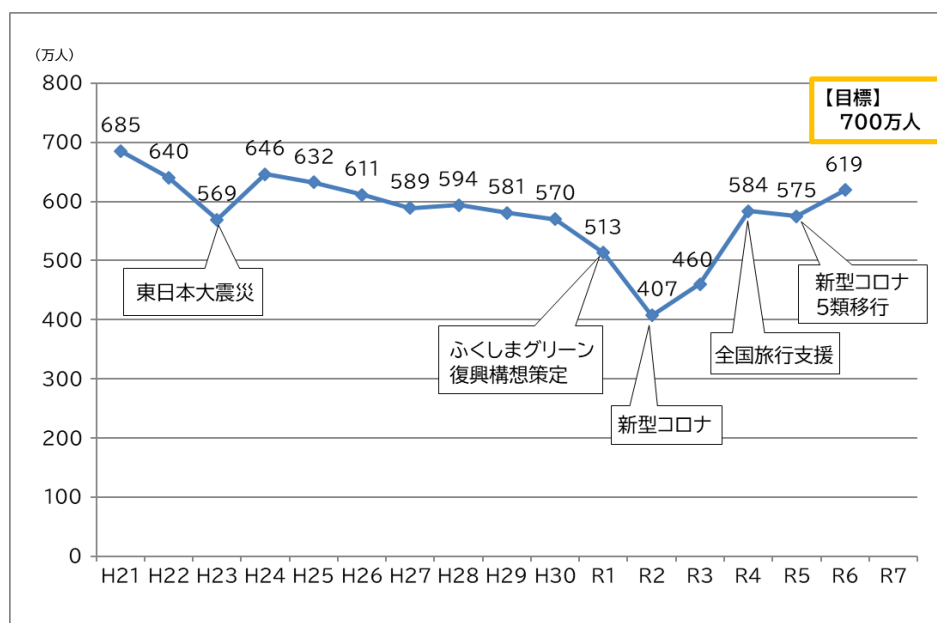
- ・ふくしまグリーン復興推進協議会を設置し、「磐梯朝日国立公園魅力向上ワーキンググループ」「越後三山只見国定公園ワーキンググループ」「周遊促進ワーキンググループ」「ワーケーション推進ワーキンググループ」の4つのワーキンググループで、課題解決に向けた検討を行うなど、ふくしまグリーン復興の推進を行った。
- ・ふくしまグリーン復興構想ホームページを作成し、自然公園に関連する情報の一元的な発信を多言語で行った。
- ・自然公園の四季の魅力を伝える動画の作成やSNSの活用により広く情報発信を行った。
- ・新宿御苑や県内外のイベント等において、県内の自然公園などの自然資源や文化などの魅力を発信した。

(3) 目標の達成状況

令和5年の国立公園・国定公園の利用者数を700万人にすることを目標として掲げていたものの、令和2年から新型コロナウイルス感染症が発生し、利用者数はさらに減少した。そのため、目標年を2年延長することとなった。



新型コロナウイルス感染症の落ち着きとともに、利用者数は徐々に回復傾向にあり、直近の令和6年国立公園・国定公園の利用者数は619万人となり、目標は未達となっている。



グラフ5 国立公園・国定公園利用者数の推移

また、取組内容の充実と進化を図りながら、福島県内の他の自然公園へと水平展開を図ることとしていたが、情報発信を除いては、水平展開できていない現状にある。

5 課題

ここでは、訪れる側の視点と、受け入れる側の視点の2つに分けて課題の洗い出しを行い、対応策について検討を行う。

(1) 訪れる側の視点

一般利用者の意識や感じている不満等について把握するため、モニターアンケートやイベントでのアンケート調査を実施した。

ア モニターアンケート

福島県、隣県、首都圏在住者で、アウトドアに年2～3回以上行く人を対象にモニターアンケートを実施し、国立公園・国定公園の認知度や満足度等について把握を行った。(回答数1,055)

(ア) 訪問歴

直近5年以内に訪れたことがあると回答した人は磐梯朝日国立公園は39%、日光国立公園は13%、尾瀬国立公園は23%、越後三山只見国定公園は22%となった。

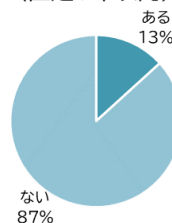
設問 以下の場所について、直近5年の間で、アウトドア目的の旅行で訪れたことがあれば教えてください。

- ・磐梯吾妻・猪苗代(磐梯山、安達太良山、浄土平、猪苗代湖、五色沼湖沼群など)
- ・尾瀬※福島県側(燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、田代山など)
- ・奥会津(会津朝日岳、沼沢湖、只見線など)
- ・甲子高原(甲子高原、観音沼森林公園、甲子温泉など)

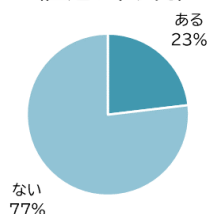
磐梯朝日国立公園への訪問有無
(直近5年以内)



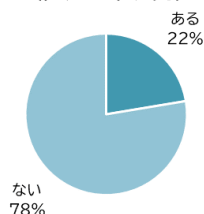
日光国立公園への訪問有無
(直近5年以内)



尾瀬国立公園への訪問有無
(直近5年以内)



越後三山只見国定公園への訪問有無
(直近5年以内)



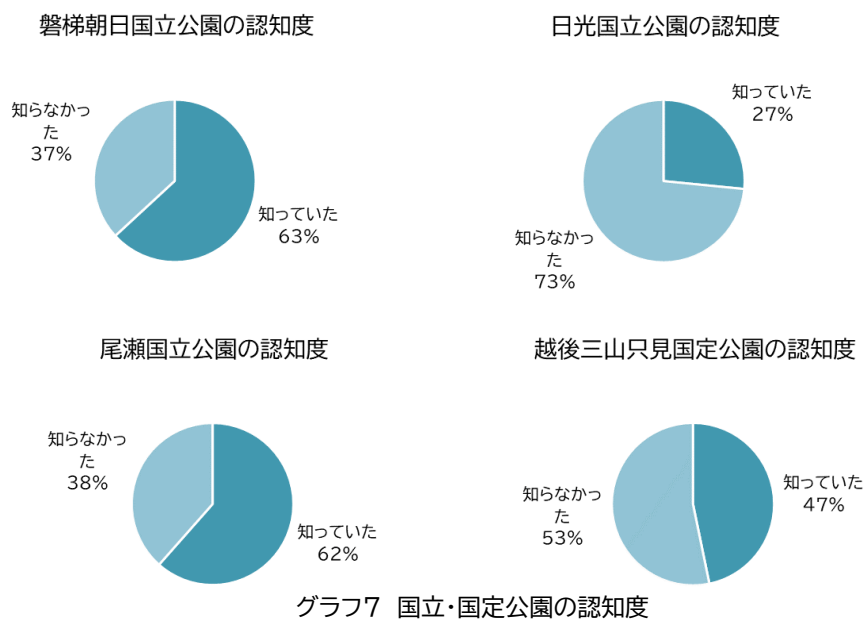
グラフ6 国立・国定公園への訪問の有無

(イ) 認知度

訪れたことがないと回答した人に、アンケート以前から各国立・国定公園を知っていたかどうか質問したところ、知っていたと回答した人は磐梯朝日国立公園は63%、日光国立公園は27%、尾瀬国立公園は62%、越後三山只見国定公園は47%となった。

設問 このアンケートの以前から、アウトドア目的の旅行先として以下の場所を知っていたかについてお答えください。

- ・磐梯吾妻・猪苗代(磐梯山、安達太良山、浄土平、猪苗代湖、五色沼湖沼群など)
- ・尾瀬※福島県側(燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、田代山など)
- ・奥会津(会津朝日岳、沼沢湖、只見線など)
- ・甲子高原(甲子高原、観音沼森林公園、甲子温泉など)



日光国立公園、越後三山只見国定公園については、訪問歴と認知度がどちらも低い結果となっており、認知度向上が課題である。

また、尾瀬国立公園については、認知度が6割あるものの、訪問歴が2割程度にとどまっていることから、訪れてもらうきっかけづくりが必要と考えられる。

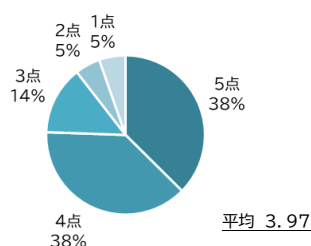
(ウ) 満足度

訪れたことがあると回答した人に、訪問中の満足度について質問したところ、磐梯朝日国立公園は平均3.97点、日光国立公園は平均3.90点、尾瀬国立公園は4.03点、越後三山只見国定公園は3.95点となった。

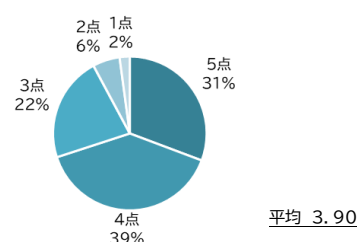
設問 5年以内に訪れたことがあると回答された方にお伺いします。旅行先としての総合的な満足度について、最も低い評価を1、最も高い評価を5とした際の点数を教えてください。

- ・磐梯吾妻・猪苗代(磐梯山、安達太良山、浄土平、猪苗代湖、五色沼湖沼群など)
- ・尾瀬※福島県側(燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、田代山など)
- ・奥会津(会津朝日岳、沼沢湖、只見線など)
- ・甲子高原(甲子高原、観音沼森林公園、甲子温泉など)

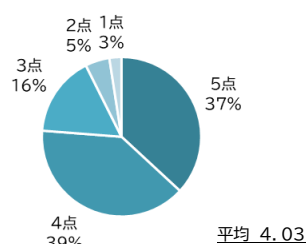
磐梯朝日国立公園の満足度



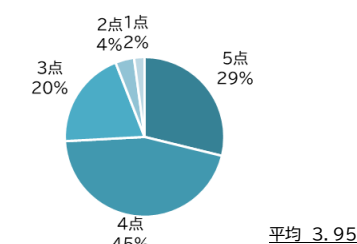
日光国立公園の満足度



尾瀬国立公園の満足度



越後三山只見国定公園の満足度



グラフ8 国立・国定公園の満足度

課題の洗い出しのため、評価理由について自由記述で回答してもらった中から、満足度を下げた理由について抽出を行ったところ、主な内容は下記のとおりとなった。

- 現地までの移動手段や道路混雑など、アクセスに関するもの
- 遠いなど、距離に関するもの
- 値段が高いなど、費用に関するもの
- 期待していたほどではなかった、感動しなかったなど、魅力に関するもの
- 天気が悪かった、雨天時にすることがないなど、天候に関するもの
- 施設の老朽化や数の少なさ、看板の分かりづらさ、汚いなど、施設に関するもの
- 現地情報が少ないなど、情報発信に関するもの
- ゴミやマナーに関するもの

《参考》公園毎の満足度を下げた理由(自由記述から一部抜粋)

■ 磐梯朝日国立公園

- ・ 混雑していた
- ・ クマの出没が怖い
- ・ 交通の便が悪い(車がないと厳しい、バスの便数が少ない等)
- ・ 遠く感じる
- ・ 気候に関するもの(暑い・寒い)
- ・ 天候に左右されやすく、悪天候時にやることがない
- ・ トイレが少ない、汚い
- ・ 現地情報が少ない
- ・ 期待していたほどではなかった(思ったほど綺麗じゃない)

■ 日光国立公園

- ・ 食事処や施設などは古さが目立った
- ・ 看板が分かりにくいところがあった
- ・ アクセスがあまり良くない
- ・ 少し遠い
- ・ やや地味
- ・ 自分たちのニーズに合っていなかった
- ・ やや天候がよくなかった
- ・ トイレがいまいち
- ・ 他の県の方が良いと思ったから
- ・ 携帯の電波がやや繋がりにくいからあまり行きたくない
- ・ 特に感動しなかった

■ 尾瀬国立公園

- ・ 昼食を気軽にとれるお店を見つけるのに苦労した
- ・ 天気が悪かった
- ・ 天気が悪いと他にすることがなくなってしまうのが難点だと思った
- ・ 思ったより暑く、不快感だった。植物は見るものがなかった
- ・ 思ったより景観が悪かったこと
- ・ 休むところが少なかった
- ・ 交通は不便
- ・ 行くまでの道のりが大変
- ・ 遠く感じる
- ・ 混雑していたため
- ・ コンビニが、少ない
- ・ 温泉が高いのと掃除が行われてない高級店がある
- ・ 値段が高い
- ・ 設備の多少の老朽化を感じる
- ・ トイレがいまいち

■ 越後三山只見国定公園

- ・ 只見の紅葉に行ったが、紅葉の情報が少なく、現地に行ったら紅葉には少し早かった
情報発信が少なくてもったいない
- ・ ゴミが散乱されていた
- ・ 交通が不便
- ・ 現地へのアクセスにやや難点があった
- ・ 週末に行くと帰宅時に渋滞に巻き込まれる可能性が高いのが難点である。
- ・ マナーが悪い人が多い
- ・ 自然景観としては今ひとつだった
- ・ 天候に左右される。天候が悪かったときに訪ねる魅力的な場所がない
- ・ トイレがいまいち
- ・ コンビニが少ない

イ 首都圏イベントでのアンケート

首都圏で開催された、アウトドアブランド会員向けのイベントにてアンケート調査を実施し、国立公園・国定公園だけでなく、県立自然公園、ロングトレイルの認知度について把握を行った。(回答数964)

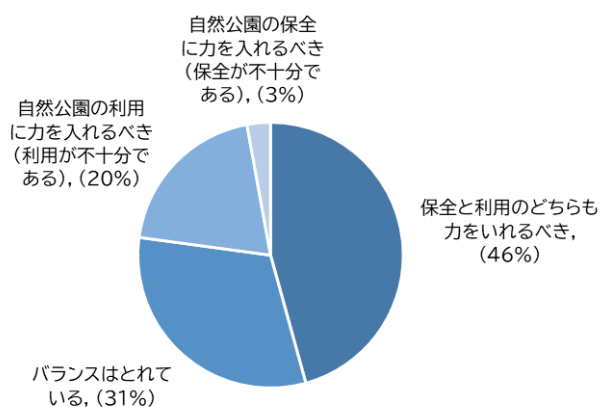
「知っている」又は「行ったことがある」と回答した割合は、下記のとおりとなり、アウトドアに関心がある層であっても、県立自然公園やロングトレイルの認知度が低いことが分かった。

磐梯朝日国立公園	63%	県立自然公園	42%
日光国立公園	55%	みちのく潮風トレイル	22%
尾瀬国立公園	63%	ふくしま浜街道トレイル	20%
越後三山只見国定公園	42%	会津トレイル	22%

(2) 受け入れる側の視点

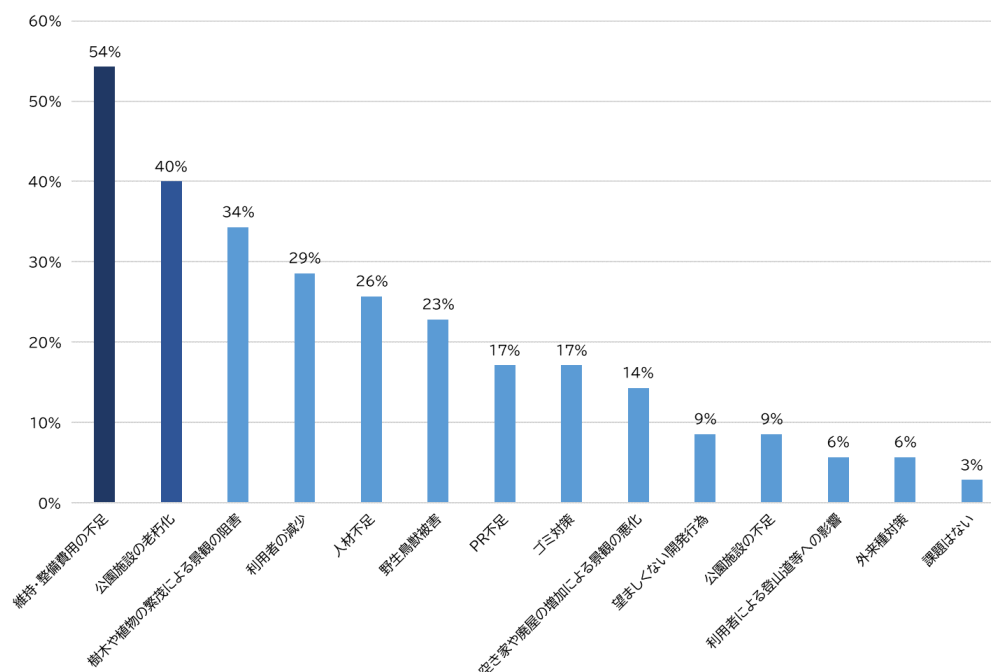
各自然公園の現状と考え方について、市町村にアンケートを行い、課題の洗い出しを行った。(回答25市町村)

自然公園における取組について、「保全と利用のどちらも力をいれるべき」が46%、「自然公園の利用に力をいれるべき(利用が不十分である)」が20%、「自然公園の保全に力をいれるべき(保全が不十分である)」が3%となり、保全と利用の取組の必要性が明らかとなった。



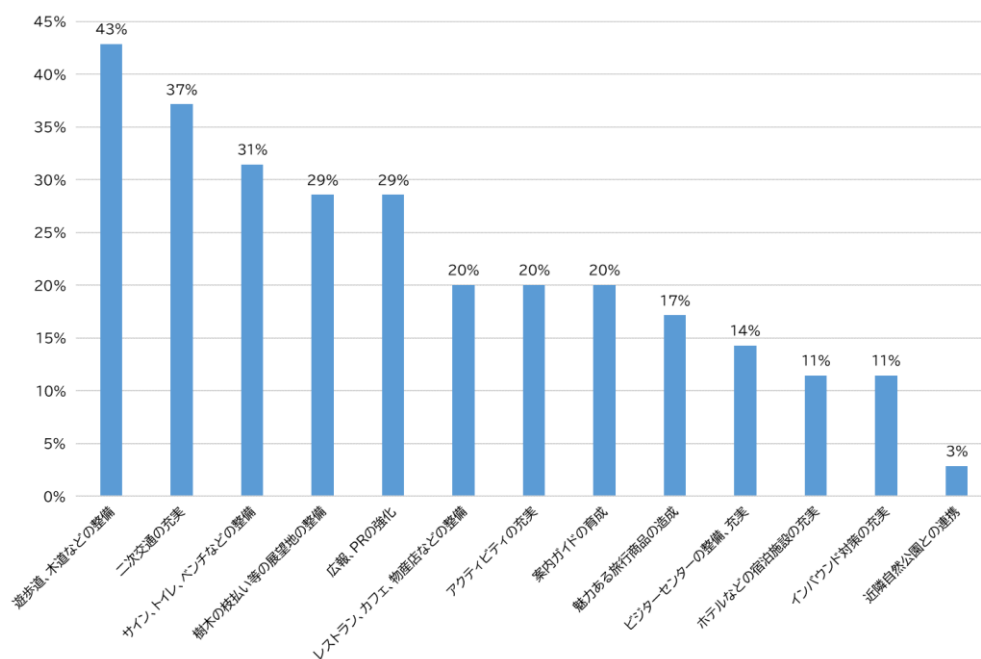
グラフ9 保全と利用のバランス

受け入れ側が抱えている課題としては、「維持・整備費用の不足」や「公園施設の老朽化」、「樹木や植物の繁茂による景観の阻害」、「利用者の減少」、「人材不足」などが多く挙げられた。



グラフ10 抱えている課題

利用者を増やすために必要と思われる取組としては、「遊歩道、木道などの整備」、「二次交通の充実」、「サイン、トイレ、ベンチなどの整備」、「樹木の枝払い等の展望地の整備」、「広報、PRの強化」などが多く挙げられた。



グラフ11 利用者を増やすために必要と思われる取組

(3) 課題の整理

訪れる側の視点、受け入れる側の視点、更に自然公園を取り巻く環境の変化を踏まえ、課題の整理を行った。これらの課題の解決に向け、取組を強化していく必要がある。

○ 自然環境の保全に関するもの

- ・ 2050年までのカーボンニュートラルの実現や、2030年までのネイチャーポジティブの実現に向け、県民や企業の自然保護意識を高め、自然環境の保全につなげていく必要がある。また、30by30達成を目指し、県土における保護地域及びOECM※の占める割合の増加に向けた取組が必要となる。

※ OECM(Other Effective area-based Conservation Measures)とは、自然公園等の保護区以外に、目的に関係なく、民間等の取組により生物多様性保全に貢献している地域のこと。

- ・ 自然公園内のゴミ問題や利用上のマナー違反などの解決に向け、利用者一人一人が自然への親しみや自然保護意識を持つための施策が必要である。
- ・ 野生鳥獣対策や外来種対策など、自然環境を守る取組の継続が必要である。

○ 滞在中の満足度に影響を与えるもの

- ・ 自然公園の魅力が訪れた人に十分に伝わっていないことから、改めて歴史・文化などのストーリーや魅力の磨き上げが必要である。また、磨き上げとともに、何度も繰り返し訪れてもらえるよう、周遊性の向上のため、ロングトレイルや体験コンテンツの充実など多様な楽しみ方の創出も必要である。
- ・ 老朽化した公園施設や遊歩道、木道などの維持管理整備を行い、利用者の安全性や快適性を高める必要がある。
- ・ 現地情報が少ないという声や看板の分かりづらさを上げる声もあり、ビジターセンターでの情報発信の強化や誰もが分かりやすい看板等の整備が必要である。
- ・ 自然公園の優れた景観を楽しめるよう、眺望の阻害要因となっている樹木や植物の除去や管理が必要である。
- ・ 誰もが快適に楽しめるよう、増加傾向にあるインバウンド観光客の受け入れ体制の更なる強化が必要である。
- ・ 道路の混雑やアクセスの悪さを上げる声もあることから、観光シーズンにおける交通渋滞の緩和や二次交通の充実について、引き続き検討を続けていく必要がある。

○ 利用者数の拡大に関するもの

- ・ 自然公園の認知度が低いままでは新規利用者の増加につながらないため、一層の情報発信が必要となる。各公園のプロモーションの強化はもちろんのこと、アクセス情報を含め一体的な情報発信を図っていく必要がある。
- ・ 期待値とのギャップを最小限にするため、訪れる人が容易に正確な事前情報を入手できるよう、国や関係自治体等と連携しながら情報発信を行う必要がある。

6 目指す姿

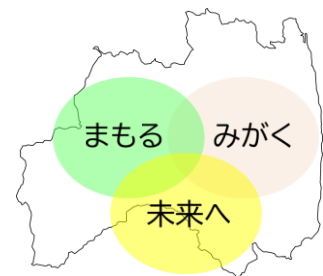
「ふくしまグリーン復興構想(第2期)」の目指す姿を次のとおりとする。

- ・ 豊かで多様性ある自然環境を適切に保全するとともに、美しいふくしまの自然との関わりを通して自然保護意識の醸成を図り、自然の恵みを次世代へつなげる。
- ・ 個々の自然公園の魅力を磨き上げ、広域的に周遊する仕組みづくりなどにより、自然公園利用者数の回復と交流人口の拡大、さらには地域経済の活性化を図り、福島県全体の復興に寄与する。

7 第2期の基本方針

(1) 基本方針

自然保護意識の醸成と自然環境の保全への取組を加速させるとともに(まもり、未来へつなぐ)、更に多くの人に愛され、利用される自然公園としていくために地域と一体となって滞在環境の向上を図る(みがき、未来へつなぐ)。



(2) コンセプト

次をコンセプトとし第1期構想から引き継ぎ、本構想の取組を推進する。

まもり、みがき、未来へつなぐ。至福のふくしま

(継続)

(3) 対象エリア

自然公園を中心とした福島県全域

8 数値目標

本構想の目指す姿に向け、以下の4つを数値目標とする。

指標名	現状 (R6年)	目標 (R12年)
県土における保護地域及びOECMの占める割合	28.8%	30.0%以上
自然公園利用者数※	1,016 万人	1,064 万人
磐梯朝日国立公園 訪問中の満足度	72.8%	80%以上
日頃、省エネルギーや地球温暖化防止を意識した取組を行っている」と回答した県民の割合(意識調査)	48.8%	73%以上

※ 自然公園利用者数は、福島県観光交流課が公表している「福島県観光客入込状況」から自然公園内の観光地点等の入込数を集計している。より詳しく利用実態を把握、比較するため、自然公園利用者との関連が高い地点の観光客入込数の1割増(R6年比)を補完指標に設定する。

9 2つの柱と具体的取組

福島県と環境省は連携して自然公園の利用者や各地域のニーズ等の把握に努めながら、「自然環境の保全と自然保護意識の醸成」、「自然公園等の滞在環境等の上質化」の2つの柱に沿って本構想の実現に取り組む。構想の推進に当たっては、市町村、関係団体はもちろん、地域の民間事業者等と一体となって魅力の磨き上げ等に取り組んでいく。

柱1	柱2
<u>自然環境の保全と自然保護意識の醸成</u> ○自然環境の保全と再生・脱炭素化 ・ 越後三山只見国定公園の拡張 ・ 自然共生サイト認定数の増加に向けた情報発信、支援体制の構築 ・ 鳥獣対策や水環境保全等の自然環境の保全 ・ 脱炭素に向けた取組の強化 ○自然保護意識の醸成 ・ 「山の日」全国大会の本県開催 ・ 国立公園の周年イベントの開催 ・ 環境学習・エコツーリズムの推進	<u>自然公園の滞在環境等の上質化</u> ・ 自然公園の魅力・ストーリーの磨き上げ ・ 周遊促進の仕組みづくり ・ 「山の日」全国大会を契機とした自然公園の利用促進 ・ ロングトレイルの活用推進 ・ 体験コンテンツの充実 ・ 利用拠点の整備・充実 ・ 景観の改善 ・ インバウンド及びオーバーツーリズム対策 ・ 多様な移動手段及び長期滞在利用の検討 ・ 官民連携等による保全と利用の好循環の創出
効果的な実施に向けた情報発信・プロモーション ○ホームページ・SNS等の活用 ○国や関係自治体等と連携した情報発信 ○インバウンドに対応したプロモーション活動など	

柱1 自然環境の保全と自然保護意識の醸成

保護地域及び OECM の面積を確保していくなど、カーボンニュートラルの視点も取り入れながら自然環境の保全・再生に継続して取り組み、ネイチャーポジティブの実現を目指す。

「山の日」全国大会の本県開催に向けた調整等、美しいふくしまの自然との関わりを通して自然保護意識の醸成を図り、自然の恵みを次世代へつなげる。

《具体的取組》

○ 自然環境の保全と再生・脱炭素化

以下の4つの取組により、自然環境の保全と再生・脱炭素化を推進する。

・ 越後三山只見国定公園の拡張

国立・国定公園総点検事業のフォローアップにより、国立・国定公園の新規指定・大幅拡張候補地として奥只見地域が抽出されている。奥只見地域は越後三山只見国定公園と隣接しており、地理的な連続性や植生の近似性があることなどから、周辺地域を含めた調査の実施や、公園区域の見直しの検討を行う。

・ 自然共生サイト認定数の増加に向けた情報発信、支援体制の構築

現在、5地域において自然共生サイトが認定されているが、民間による自然保護活動を推進するため、ポテンシャルの高い民有地を所持する企業等へ積極的な呼び掛けをし、企業等による保全活動の推進や自然共生サイト認定に向けた支援を行う。

・ 鳥獣対策や水環境保全等の自然環境の保全

魅力ある自然環境を守り次世代へ継承するため、猪苗代湖を始めとする湖沼の水環境保全活動や調査研究、特定外来生物の防除、野生鳥獣による貴重な植物の食害対策のための鳥獣保護管理等を積極的に行い、自然環境の保全を推進する。

・ 脱炭素に向けた取組の強化

ゼロカーボンパークへの登録や自然公園内施設の環境配慮型設備への切り替えなど、脱炭素に向けた取組を推進する。また、脱炭素についての知識を深めるツアーを開催し、脱炭素意識醸成を図る。

○ 自然保護意識の醸成

「山の日」全国大会の本県開催や尾瀬及び磐梯朝日国立公園の周年企画等により、改めて本県の自然の美しさを県内外に広く伝えることで自然保護意識の醸成を図り、自然の恵みを次世代へつなげていく。

ラムサール条約湿地である猪苗代湖と尾瀬での環境学習を推進し、子どもたちの自然保護意識の醸成を図る。

- ・「山の日」全国大会の本県開催

「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」という国民の祝日「山の日」の趣旨を広く知ってもらう「山の日」全国大会を本県で開催する(令和10年)ことで、本県の山に関する歴史・文化の継承、環境整備・保全、観光振興、健康増進を図るとともに、山岳遭難や自然災害への対応などの様々な課題や「山の未来」の在り方について考える機会を創出し、自然保護意識の醸成を図る。

- ・ 国立公園の周年イベントの開催

尾瀬国立公園は令和9年度に指定から20周年、磐梯朝日国立公園は令和12年度に指定から80周年を迎えることから、周年記念イベントの開催を通して、改めて自然の美しさや大切さを広く伝え、自然保護意識の醸成を図る。

- ・ 環境学習・エコツーリズムの推進

ラムサール条約湿地に登録された猪苗代湖において水環境保全のために取り組んでいるヒシ刈り・ヨシ刈りや湖岸清掃、裏磐梯湖沼群における外来生物の駆除活動などと連携し、自然体験による学びの場として活用していく。

また、エコツーリズムの推進のため、ガイド等の人材の確保・育成の取組支援を行う。

柱2 自然公園等の滞在環境等の上質化

地域と一体となって自然公園の魅力・ストーリーを磨き上げ、来訪者へ優れた自然の中で心と体を満たす癒やしのひとときと上質な体験の提供による滞在の満足度を向上させる。

みちのく潮風トレイルとふくしま浜街道トレイルの連携等ロングトレイルの活用推進によるリピーターの増、新規層（インバウンド含む）の獲得、滞在期間・頻度の増を目指す。

《具体的取組》

・ 自然公園の魅力・ストーリーの磨き上げ

自然公園の利用促進に向け、改めて各公園の魅力やストーリーを地域とともに磨き上げ、利用者がより自然公園を満喫できるような仕掛けづくりを行う。

日光国立公園（那須・甲子エリア）及び磐梯朝日国立公園（磐梯吾妻・猪苗代エリア）においては、インタープリテーション全体計画を策定し、地域ならではの「魅力」や「価値」を来訪者に伝えるストーリーとしてまとめる。ガイド・宿泊・飲食・交通・観光事業者などに、これらの国立公園のストーリーを共有することにより、地域の魅力や価値を効果的に伝える取組を推進する。

尾瀬国立公園においては、「尾瀬国立公園利用アクションプラン」に基づき、本公園の魅力向上と質の高い利用を実現するため、利用者が尾瀬を楽しむ活動と守る活動の両方の機会を提供することを通じ、尾瀬ファンを増やしていくための取組を、地域一体となって推進する。

・ 周遊促進の仕組みづくり

特徴の異なる自然公園間を結び、県内全域に数多くある魅力的なスポットを周遊するきっかけとして、ふくしまビューポイントの追加設定等、周遊促進ツールを作成する。

・ 「山の日」全国大会を契機とした自然公園の利用促進

「山の日」全国大会の開催を契機として、登山道や遊歩道等の利用拠点の再整備・充実を進めるとともに、魅力の発信や周遊促進に取り組み、利用促進に繋げる。

・ ロングトレイルの活用推進

東北地方の太平洋沿岸に伸びるみちのく潮風トレイルとふくしま浜街道トレイルの連結利用を想定した取組を推進する。特に両トレイルを運営する民間団体の活動を積極的に支援することで、トレイルの管理と利用促進に必要な官民連携を進める。また、トレイルウォークイベントの共同開催や両トレイルの魅力の一体的発信等、両トレイルの積極的な利用につながる取組を推進する。

福島県西部に位置する会津トレイルを訪れた人が会津の自然や文化、歴史を感じることでできるよう解説標識等を多言語にて整備し周知する。

- ・ **体験コンテンツの充実**

自然公園の魅力の磨き上げとともに、県立自然公園を中心に体験コンテンツの充実を図る。

- ・ **利用拠点の整備・充実**

自然公園において老朽化が進む利用施設(野営場や園地、遊歩道等)の更新や機能向上を行うとともに、ビジターセンターの活用を促進し、来訪者の満足度向上を図る。

磐梯朝日国立公園(磐梯吾妻・猪苗代地域)において、利用拠点改善計画(五色沼東エリア(策定済み)、猪苗代湖南部エリア(策定中))に基づき利用拠点の滞在環境の上質化を図る。

- ・ **景観の改善**

ふくしまビューポイントに選定されているビューポイントにおいて、自然環境に影響を与えないことを前提に、当該ビューポイントにおける眺望の景観改善に努める。

- ・ **インバウンド及びオーバーツーリズム対策**

増加傾向にある外国人利用者に対し、自然公園等の情報や魅力を分かりやすく伝えるため、標識やパンフレット等の多言語表記や案内ツールの拡充を図る。この他にトイレの洋式化等のインバウンド受入環境の整備を図る。

磐梯朝日国立公園(磐梯吾妻・猪苗代地域)の浄土平エリアにおいて利用ピーク時期における混雑が課題であり、混雑緩和に向けた対策の検討を地域関係者と共に必要に応じて実施する。

- ・ **多様な移動手段及び長期滞在利用の検討**

ロングトレイルでの歩く旅やサイクルツーリズム、バスや鉄道などの公共交通機関を活用した、ゆっくり深く地域を楽しむ旅を促進する。

また、観光シーズンにおける交通渋滞の緩和や利便性の向上に向け、引き続き二次交通の検討を行う。

- ・ **官民連携等による保全と利用の好循環の創出**

自然環境保全活動や整備活動等のツアープログラム化、企業からの協力(資材・労力の提供等の活用)や利用者からの協力金等による木道・登山道整備や維持管理について実施・検討を行い、利用と保全の好循環につながる取組を進める。

登山道の荒廃が進む区間における対策として近自然工法等の持続的な維持管理に取組む個人、団体の技術・知見の習得、地域間連携につながる取組を推進する。